

⑨日本国特許庁
公開特許公報

①特許出願公開
昭52-138062

②Int. Cl².
B 01 D 15/00 // 101
C 02 C 5/02 101
C 22 B 60/02

③日本分類
13(7) B 621
10 G 22
13(9) F 2
91 C 91

④内整理番号
7404-4A
7047-42
6939-4A
6462-26

⑤公開 昭和52年(1977)11月17日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全2頁)

⑥海中を移動する吸着剤ブロック

⑦特 願 昭51-54976
⑧出 願 昭51(1976)5月13日
⑨発明者 芦田啓次
東京都千代田区鍛冶町二丁目6

番1号 住友原子力工業株式会社内

⑩出願人 住友原子力工業株式会社
東京都千代田区鍛冶町二丁目6
番1号

⑪代理人 弁理士 滝本浩

明細書

発明の名称 海中を移動する吸着剤ブロック
特許請求の範囲
多数の膜状吸着剤をそれぞれ小間隙を隔てて重合し前記小間隙に海水を搬出入せしむることを特徴とする海中を移動する吸着剤ブロック。

発明の詳細な説明

本発明は海中を移動する吸着剤ブロックに関するものである。

海水中に含有される稀少物質例えばウランを採集する方法の一つとして吸着法が研究されているが、海中を移動する吸着剤として液体抵抗が小さく且つ広い面において海水と接触するものが要求されている。

本発明はこの要求に応じて工夫されたものであつて、膜状吸着剤を間隙を隔てて多数重合せるものである。

これを図面により具体的に説明すると図面は本発明の吸着剤ブロックの斜視図であつて、(1)は膜状吸着剤例えばチタン膜、方解石等の粉粒体を複数に附着せるもの又は繊維状吸着剤を膜状に加工せるものであつてこれを多数それぞれ小間隙(2)を隔てて重合せ

てて重合し、マルチ(3)にて締めつけてブロック(4)とせるものである。をか小間隙を隔てる手段としてスペーサーを用いててもよい。(5)は海水の流入方向、(6)はその流出方向である。

本発明の海中を移動する吸着剤ブロックは多数の膜状吸着剤をそれぞれ小間隙を隔てて重合せるものであるから流れる海水は多数の小間隙より入って広い面において吸着剤に接触して出て行くので、液体抵抗は小さく、且つ広い面に於いて海水と接触するので海水中に含有される稀少物質の吸着効率が極めて良いのである。

図面の簡単な説明

図面は本発明の海中を移動する吸着剤ブロックの斜視図である。

(1)は膜状吸着剤、(2)は小間隙、(4)は吸着剤ブロック、(5)、(6)はそれぞれ海水の流入、流出方向。

代理人 弁理士 滝本浩

